

認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会だより

“友よ”

リーバー フロイント

Lieber Freund

発行：認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会事務局
TEL 088-686-9999 FAX 088-686-9994
http://www.naruto-9.com/ E-mail: kanki@naruto-9.com

vol. 18
2018年8月26日発行



6月1日18時30分より、鳴門市ドイツ館前の広場で行われた「よみがえる第九」

第九アジア初演100周年の節目に記念事業、華々しく

「第九アジア初演100周年」本番を迎え、盛り沢山の記念事業が実現いたしました。

開幕イベントを飾った「子どもと大人のベートーヴェン“第九”交響曲第4楽章演奏会」では、次の100年を担う頼もしい小学生らが楽器を奏で、歓喜の歌を熱唱しました。続いて、100年前の同じ日、同じ時刻に合わせて、初演の再現となる男声のみによる「よみがえる“第九”」の大合唱が、ドイツ館前広場に響き渡りました。

フィナーレは、鳴門市文化会館の大舞台で2日間にわたって行われた大演奏会です。遠路はるばるご参加くださったドイツ、中国、アメリカ、全日本そして地元・鳴門合わせて1163名の国際色豊かなメンバーによる「なるとの“第九”」の登場です。鳴門市の姉妹都市リューネブルク市からお迎えしたトーマス・ドーシュ氏のタクトに乗って、満席のお客様の前での大合唱となりました。毎年合唱団を支えてくださる徳島交響楽団のオーケストラの豊かな響きと、「Freude, schöner Götterfunken…」と歓喜の歌声を合わせるソリスト・合唱団の声がひとつになって、ホール全体が感動の渦に包まれました。

100周年を大成功に導いてくださったのは、企画から運営等すべてにわたってご尽力いただいた鳴門市、鳴門

「第九」を歌う会役員をはじめ、ボランティアの方々等、多くの陰のお力と、この日のために熱心に練習に取り組み、舞台に大輪の花を咲かせてくださった徳島交響楽団、ソリスト、合唱団の皆様の輝きがあってこそと感謝を申し上げます。

4日間にわたって会場に足を運んでくださった多くの観客の皆様、演奏会後のアフター交流会で約720名の参加者の楽しい交流の場を設定いただいた関係の皆様を含め、かかわってくださったすべての皆様にご心よりのお礼を申し上げ、ごあいさついたします。

(認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会

理事長 大塚 道子)



6月1日の記念式典では、大塚理事長と元捕虜ブルーノ・ハーケ氏の孫スザンヌさんに鳴門市より感謝状が贈られました

よみがえる第九

100年の時をこえて 板東の地によみがえった歓喜の歌

2018年6月1日午後6時30分、ドイツ館前広場に管弦楽の音が流れ始めました。同じ日、同じ時刻に、板東俘虜収容所に収容されていたドイツ兵により「第九」がアジア初演されてから100年。「ドイツさん」が奏でた奇跡の「第九」がこの地によみがえりました。合唱はもちろん、4人のソリストもすべて男声による「バンドー第九」の再現です。

広場には1時間も前から長蛇の列ができ、予想を上回る約1200名の観客で会場は異様な熱気！元捕虜の子孫や、松江所長の出身地である福島県・会津若松市からのお客様など、ゆかりの人達の見守るなか、演奏が始まりました。子どもを肩車したお父さん、広場の階段に腰掛けて目を閉じて聞き入るおばあさん……風に乗って流れてくる草の香りや虫の音……野外の演奏会はなんともいえない雰囲気。だんだんと日が暮れてゆき、第4楽章が始まる頃には、闇にステージが浮かび上がり、まるで100年前へとタイムスリップしたかのような錯覚に陥るほどです。

演奏会に先立って、松江豊壽さんの銅像建立寄贈式及び除幕式が行われました



広場にテントを特設。お天気にも恵まれ、最高のシチュエーション



館内ではドイツのベートーヴェンハウス学芸員、ペアーテ・アンゲリカ・クラウスさんによる記念講演も開催



指揮 延原 武春
管弦楽 テレマン室内オーケストラ
ソリスト ソプラノ：頃安利秀(テノール) アルト：時宗 務(バソーン)
テノール：米澤 傑 パス：今泉仁志
合唱 関西学院グリーンクラブ
認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会

会場は？ ステージは？ 雨天時の対応は？……野外公演の心配事は尽きず、この日のために関係者は16回も会議を重ね、5月には鳴門のメンバーが関西学院大学へ出向いて合同練習も行いました。それが実り、バンドー第九は力強く、かつ男声合唱特有のまろやかなハーモニーが絶妙！ これまでに体験したことのない第九に心をゆさぶられました。

——いまから百年後に わたしの詩の葉を 心をこめて 読んでくれる人 君はだれか——。ノーベル文学賞受賞のインドの詩人タゴールに「百年後」という詩があります。100年前のドイツさん達、100年後の誰かと私達は話すことはできないけれど、音楽を通じて心を通わせることができる。そんなことを確信させてくれた演奏会でした。

米澤 傑さん、故郷へ里帰りの「第九」



先般6月1日の「よみがえる第九」におきましては、たいへんお世話になり、誠にありがとうございました。私の生まれ故郷の鳴門で、アジア初演100周年記念の「第九」を歌わせていただき、この上ない幸せに存じます。まさに、私の一生の記念の演奏会となりました。

DOCUMENT 2018. 6. 1

- 10:00～記念式典 (ルネッサンスリゾートナルト)
- 11:30～記念レセプション (")
- 14:00～日独シンポジウム「第九永遠なり」(")
- 14:30～第16回「第九」ワークショップ記念講演
ベートーヴェンハウス学芸員クラウス女史 (鳴門市ドイツ館)
- 16:30～ドイツ兵慰霊碑への献花 (ドイツ村公園)
- 17:30～松江豊壽銅像建立寄贈式及び除幕式 (鳴門市ドイツ館前広場)
- 18:30～「よみがえる第九」演奏会 (鳴門市ドイツ館前広場)

※5月29日～6月24日、鳴門市ドイツ館2階企画展示室では特別展を開催 (6月1日は入場無料)



日独シンポジウムでは、元ドイツ大統領 クリスティアン・ヴルフ氏による基調講演とパネルディスカッションが行われました



元捕虜の子孫、ペトラ・ポナー氏から、初演のプログラムなど貴重な資料が鳴門市ドイツ館に寄贈されました

指揮 トーマス・ドーシュ
 ソリスト 坂井 里衣 (ソプラノ)
 大賀真理子 (アルト)
 芹澤 佳通 (テノール)
 新見 準平 (バリトン)
 管弦楽 徳島交響楽団

合唱指導 傾安 利秀
 ジェフリー・バーンスタイン
 合唱 認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会
 全日本「第九を歌う会」連合会



「第九」アジア初演100周年記念
第37回ベートーヴェン「第九」交響曲演奏会 2018年6月2日(土) 18:00～

ドイツ、アメリカ、中国、そして日本全国より約1163人ももの合唱団が鳴門市文化会館に集結し、6月2日、ついに記念演奏会の幕が開きました！

満席の客席には、ドイツ連邦共和国元大統領領のクリスティアン・ヴルフ氏、姉妹都市リューネブルク市長のウルリヒ・メドケ氏らの来賓、そして、捕虜の子孫の方々25人の姿も見えます。また、次の100年を担う鳴門市内の中学1年生と保護者24組も招待。大切に育んできた各国との交流、さまざまな取り組みが、この演奏会で確かな実を結びました。

「すべての人類は兄弟となる」
 心ひとつに奏でる歓喜の響き、
 感動がホールを揺るがすのを感じました。



第1部はドイツ人の研究者、マンフレッド・クラメス氏による記念講演「交響曲“第九”の秘密」

**4か国語が飛び交う
 まさに国際色豊かな演奏会**

指揮者のトーマス・ドーシュ氏はドイツ人、合唱指導のジェフリー・バーンスタイン氏はアメリカ人。合唱団は4か国から参加。なので、音楽の指示も事務連絡も、各国語に通讯しながら進みました。でも、不思議ですね。ともに第九



鳴門市国際交流員、リリ・ブシュミンさんも通訳で大活躍

を歌った後は、言葉はわからなくても、笑顔で心が通じるようになったような気がするのです。

合唱指導のジェフリー・バーンスタインさん



**歴代ソリストから選ばれた
 栄えあるグランドチャンピオン**

鳴門「第九」では、若手音楽家の育成のために第28回演奏会より、ソリストを全国公募し、公開オーディションで選出してきました。初演100周年の今年は、第28～36回の歴代ソリストよりグランドチャンピオン大会を開催！ひとまわりもふたまわりも大きくなって鳴門に里帰りしてくれたソリスト達が、記念演奏会に美しい華を添えてくださいました。



2017年9月7日、鳴門市文化会館にてグランドチャンピオン大会を開催

**鳴門「第九」の発展に貢献した
 個人と団体に感謝状を贈呈**

1982年の第1回演奏会以来、37回連続で演奏会に出演しているお二人(森純史さん、山室昭次さん)と、同じく第1回より演奏で合唱団を支えてくださった徳島交響楽団に、その功績をたたえて感謝状を贈呈しました。徳島交響楽団なくして、鳴門「第九」の今はありませんでした。共に「第九」に初めて挑んだ第1回演奏会から、日本全国へ、世界へと広がる鳴門「第九」と、いつも一緒に歩んでくださったことに心より感謝申し上げます。



→100周年を祝って徳島交響楽団よりお花をいただきました



初演の日にビッグニュース! 第54回徳島新聞大賞を受賞

ふるさと徳島に貢献した団体や個人を顕彰する徳島新聞賞。本年度の大賞に、認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会が選ばれました。1918年に板東俘虜収容所で第九がアジア初演された史実を、当時の松江豊寿所長や住民との人道・博愛に基づく国際交流と位置付け、顕彰活動を継続してきたこと。また、初演100周年の今年、「平和と融和」のメッセージを徳島から世界に発信したことが評価されました。徳島新聞創刊記念日でもある6月1日、贈呈式が行われました。大きなご褒美をいただいた気分です。



喜びにわく事務局。大賞の盾を囲んで

過去最大の約720名が集い 歓び弾けたアフター交流会

演奏が終わったら、もうひとつの本番「アフター交流会」が鳴門市民会館でスタート。4か国の合唱団、指揮者、ソリスト、そしてドイツ連邦共和国 元大統領のヴルフ氏、リューネブルク市長のメドケ氏をはじめとする来賓の方々を含め、参加者は約720名！ 鳴ちゆるうどん、握り寿司、干物焼きなどに舌鼓を打ちながら、あちこちで交流の輪が生まれました。

元捕虜の子孫の方々を紹介、海外から参加の皆さんのスピーチには会場からあたたかい拍手が。また、長年、私達の活動に多大なご賛助・ご支援をいただいている株式会社 亀井組様、理事長の大塚道子様に感謝状が贈呈されました。最後は「Freude三唱」で来年の再会を誓い合いました。



元捕虜の子孫の方達も参加



徳島県出身の料理研究家・浜内千波さん監修のお弁当



カメラマンは見た!

できるだけ
備えをと、ゲネ・本番には、
参加者全員に災害時非難用
のミニライトを配布
しました



限られたスペースを
有効に使うため、知恵を
絞る。地下リハーサル室
前に手荷物置き場を
特設しました

大麻町在住の児童文学
作家・くすのきしげのりさん。
「交響曲『第九』歓びよ未来へ!」
を発刊。ロビーでのサイン会は
大盛況でした



大塚理事長から亀井組に、会員を代表して亀井副理事長から大塚理事長に感謝状をお渡ししました



満月連の見事な阿波おどりに誘われて、大きな乱舞の渦が巻きまわりました



ご参加の皆様から あたたかいお便りが届いています

感謝の心でいっぱい

アジア初演100周年記念第九コンサートでは大変お世話になりました。実行委員の皆様も無事に盛大に終えてホッとなさった事と思います。

私達も2日・3日と二回にわけて参加させていただきました。素晴らしい感動を受け、歌い終わりました時に泣いてしまいました。心をゆるする合唱とオーケストラ、感性豊かな指揮者のもとで歌い終え、感謝の心でいっぱいになりました。この日のためにいろいろと計画され考えて下さった皆様へ厚く御礼申し上げます。

記念品は私達、わあ〜いと歓声を上げてとても喜びました。素敵な品を本当にありがとうございました。

今年で6回目の参加となり、元気に歌えた事は本当にうれしい事でした。心より御礼申し上げます。実行委員の皆様どうぞよろしくお伝えくださいませ。

神奈川県央・町田第九を歌う会 大木千冬様より

記念品もサプライズ

参加者の皆様にお贈りした記念品のマグカップは、この日のための特注品！伊万里焼の特徴である白い陶磁に第九のMの部分の楽譜をプリント。もちろんベートーヴェンの直筆です。金色の取手は、ほら、ヘ音記号です♪ティータイムのたびに、演奏会の感動がよみがえることでしょう。いつも心に歓喜の歌を…。



すべてに感動！感激！

先日の鳴門第九は感動感激で終了。まだまだ感動さめきらずといったところです。事務局の皆様、本当にありがとうございました。

念願の鳴門第九に娘と初参加しました。しかも、100周年の記念の年。本当にラッキーでした。2日のコンサートは客席で、3日の本番は、アンコールやスタンディングオペレーション。もう言葉では言い尽くせません。その後のアフター交流会もすばらしいアイデア満載で、さすが鳴門第九。おもてなしも超一流。

子ども達の浴衣姿でのおむかえ、ホール会場での劇や歌。これも最高。あの声に引かれて、食べていたお弁当をやめ、子ども達の声と姿に吸い寄せられました。素晴らしい！未来の鳴門第九はあの子達がリードしていきます。素晴らしい！

記憶遺産ぜひ成功させてください。本当にありがとうございました。来年もぜひ参加したいです。事務局の皆様、雑務・事後処理があり、しばらくはなかなか大変かと思えます。

皆様のご健康をお祈りいたします。

京奈第九友の会 高橋 幸様より

第九で笑顔広がる

第九アジア初演100周年記念演奏会の大成功、誠におめでとうございました。桐生より28名で参加させて頂き、1日のドイツ館でのコンサートから3日の本番まで余すことなく楽しく過ごさせていただきました。

私達が初めて参加したのが、2011年です。以来、各地に友人が出来、これまで岩沼、札幌、LAの第九に参加させていただいてまいりました。指導者としては、団員さんが第九を通じて音楽に親しみ、笑顔になることは喜びでもあります。

関係者の皆様のご苦勞を思うと、ただただ感謝するばかりです。お疲れのことと思います。くれぐれもご自愛くださいませ。参加させていただき、本当にありがとうございました。

桐生EBISU合唱団 深津素子様より

青空に響いた歌声のお接待

鳴門の第九演奏会には、開場の30分前からお客様が並び始めます。この時間に音楽を楽しんでもらおうと

うたの広場「NKB」の皆さんが「歌声のお接待」を企画しました。青空のもと、浴衣姿の子ども達の澄んだ歌声が流れるとお客様や昼食タイムの合唱団から拍手喝采！ また、2日には演奏会終了後、ひな壇を降りる合唱団をねぎらうように、客席の子ども達が「歓喜の歌」を歌ってくれました。自然とひな壇からも「歓喜の歌」が流れ出しました。まるで、いつまでも続くカーテンコールのように…。



県内研修

❖平成29年度総会&研修会

2017. 8/20 於：鳴門市健康福祉交流センター

酒井美里さん(ソプラノ)と市岡雅明さん(テノール)、三村加奈さん(ピアノ)によるコンサートを楽しみました。日本歌曲やドイツリート、カンツォーネやポップスまで幅広いプログラムと、美しい声に時間を忘れて聞き入りました。



❖平成29年度 発会式

2017. 11/15 於：鳴門市健康福祉交流センター

100周年に向けて練習スタート！ 第九練習の後は、「鳴門の第九と国際交流」と題して亀井俊明副理事長に講演をしていただきました。鳴門の「第九」のあゆみを振り返っていると、楽譜にカタカナを書き込みながら、がむしゃらに練習した初めての演奏会のことなど、懐かしく思い出されました。



県外研修

❖2017「かがわ第九」演奏会に参加

2017. 11/ 5 於：香川県高松市・レクザムホール

❖サントリー1万人の第九に参加

2017. 12/3 於：大阪府・大阪城ホール



第九アジア100周年記念演奏会にご参加、ご協力いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

認定NPO法人 鳴門「第九」を歌う会 理事一同

その他行事

100周年記念事業の幕開けは「子どもと大人のベートーヴェン“第九”交響曲第4楽章 演奏会」



第九はオケにとっても難曲。徳島交響楽団の大人が演奏をサポートしました



2018. 5/27 於：鳴門市文化会館

次の100年を担う子ども達による演奏会で、メモリアルウィークが始まりました。合唱は撫養・林崎・第一・板東小学校の6年生183名と鳴門「第九」の大人95名、管弦楽は徳島交響楽団ジュニアオーケストラです。子ども達はこの日のために一年間しっかり練習してきました。若々しい歌声と、大人の深みのある歌声がとけあい、心を打つサウンドが生まれていました。

指揮：山田啓明 ソプラノ：真鍋美恵 アルト：酒井美里
テノール：頃安利秀 バス：刘 宇

コーラス9

❖第40回鳴門市芸能祭

2017. 11/25 於：鳴門市文化会館

ヘンデル作曲 オラトリオ「メサイア」から「Hallelujah」ほか
指揮：大井美弥子 ピアノ：平賀理絵

❖コーラス9 第12回演奏会“ニューイヤー・コンサート”

2018. 1/21 於：鳴門市ドイツ館

2018年の幕開けを飾るコンサート。第1部はソリストによる歌曲やオペラアリア、第2部はヘンデル作曲 オラトリオ「メサイア」(抜粋)を演奏しました。

指揮：山田啓明 ソプラノ：真鍋美恵 アルト：坂東宏美
テノール：頃安利秀、市岡雅明 バリトン：刘 宇
ピアノ：平賀理絵、三村加奈 合唱指導：大井美弥子
合唱：コーラス9



お知らせ

●100周年を祝って、今年の会報は増ページでお届けします。3日にわたる演奏会の感動をお伝えできれば幸いです。

●何年も前から準備してきた100周年記念演奏会。走り回り、写真を撮りまくり、第九を歌い、仲間と喜びあい、後片付けに走り回り……。「100周年で燃え尽きてしまうのでは？」と危ぶまれていましたが、なんのなんの。次の100年に向け、意気盛んです。